ジブ
Sr. Kobayashi Midori
R. Galvão Bueno, 407
朝日新聞
伯國聖市マエストロカルヂン街一一〇九
ブラジル朝日新聞社發行所
本紙定價年六十ミル
外國郵税共百廿ミル

東亞の舞台へ力强く登場
新國民政府へ盟邦の聲援
獨伊側卒先、汪新政權承認せん

（ローマ一日同盟）イタリー政府は今後日華新條約調印を極めて好感をもつて迎へ、各方面の情勢を見極めた上近く卒先して汪新政權の承認を行ふものと信ぜられ、消思筋は一日イタリアの南京政府承認問題はすでに既定の事實で、公使派遣その他技術的問題を日獨兩當局と協議するばかりになつてゐると見てゐる（南京一日同盟）東亞の舞台に力强く登場した國民政府は引續き樞軸各方面よりの承認も豫想されるので早くも外部の交渉に當るべき外交使節の詮衡に乘り出し汪主席を中心に愼重折衝が進められつゝあり、近く院部長級に異動が行はれるものと見られる

英米側は不承認方針
依然、重慶政府を支持

【ロンドン卅日米UP】日華條約締結による汪精衛氏の新國民政府に對し英國は不承認の態度をとり、依然蔣介石政權をもつて支那唯一の合法的政府として認める旨公表したが、【ワシントン卅日佛H】ハル國務長官は定例新聞記者會見において日華條約に言及、今日汪政權の南京還都の際に對する企圖は認めぬとの方針通り新國民政府は承認せず重慶政府をもつて支那唯一の政府としてこれが承認を續行すると述べた

【ワシントン卅日同盟】ホワイト・ハウス當局は卅日對重慶追加借款に關し一般的物資購入資金五千万ドルは既に決定を見、また法幣安定資金ならびに米支爲替平衡資金として五千万ドル供與の件は目下議會の委員會で審議中であると發表するとともに、右に關するジョンズ融資局長官の大統領宛書翰を發表したが、その内容は次の如くである

米國政府は現下の國家的危機に對處すべく國防强化に必要なる戰時資材を獲得するため復興金融會社の子會社たる金屬貯藏會社に命じ重慶側資源開發委員會より總額六千万ドルのウオルフラム鑛、アンチモニー、錫などを今後數年間にわたつて購入せしめることとなりその支拂は物資購入の都度市價に應じて行ふことになつてゐる、また重慶側今日の經濟狀態を援助するため輸出入銀行は總額五千万ドルの追加借款を中國の中央銀行の保證により供與することとなり、これが償還は前記契約による重慶側よりの物資輸入によつて行ふこととなつた、なほこの輸出入銀行による追加借款の供與は米財務當局による對支援助の五千万ドル借款と關聯して米財務省との協力の

抗日政權の尻押し
米、一億弗の借款供與

工作機械の輸出制限
森島參事官、米國務省側と懇談

【ワシントン卅日同盟】森島國の國防計畫が最近工作機械生産不足のためにそのスピードを落してゐる實狀に鑑み、訪問、約三十分にわたり重要懇談を遂げた、右は最近米國が工作機械類の輸出制限をさらに强化するに決したと傳へられる折から、これが眞相を確かめるとゝもに右制限の緩和について考慮を促したものと見られる、即ち米政府は米大使館參事官は卅日午前十一時米國務省にバーリ次官補を訪問、約三十分にわたり重要懇談を遂げた、右は最近米國が工作機械類の輸出制限をさらに强化するに決したと傳へられる折から、これが眞相を確かめるとゝもに右制限の緩和について考慮を促したものと見られる、即ち米政府は米權は一日夕當地東亞クラブに日滿華共同宣言調印祝賀の晩餐會を開き、阿部、汪兩代表西尾總司令官、島田司令長官ら三百余名出席、盛大な祝宴を催した

滿洲國全權
祝宴催す

【南京一日同盟】滿洲國全權は一日夕當地東亞クラブに日滿華三國の集ひ

英佛侵略の餌食
泰國國境の變遷

泰國政府は泰國がさきにフランスに提出した舊泰國領土返還の要求がヴイシー政府から拒絶された經過を過日發表し、歐洲戰の影響によつて泰國を挾む佛印およびビルマの地位が注目されてゐる矢先、泰國の失地回復運動が新たな注意を惹くに至つた、泰國はかつては印度支那半島の大部分を領有した大國であつたが、フランスとイギリスがそれ〳〵印度支那、ビルマに進出以來次第に東西から領土を侵蝕され現在では面積僅かに五十二万方キロ（印度支那半島の全面積は約二百万方キロ）に縮少されてしまつた、英佛の泰國に對する侵略ぶりは恰も彼等の世界侵略の見本で泰國は全く英佛のシヤブリ鉢の如き觀がある

フランスは十八世紀の中頃から印度支那半島に侵略の手を染め數年にして安南、カンボヂヤ、交趾支那等を勢力下に置くやメコン河を潮つて支那に交通路を求めようとしたが、メコン河の利用價値の少いのを知り方向を轉じ西方泰國に對して爪牙を磨いて來た、即ちシヤム（泰國はもとシヤムといひ昨年六月泰（タイ）と改稱した）の領有する安南、カンボヂヤの舊領は當然安南なつたフランスに歸すべきであるとの珍妙な主張のもとに泰國に對して攻勢を開始、一八九三年遂に兵力を動かしてメコン河以東のシヤム領全部を割讓せしめた、その後兩國間に永らく紛糾をつゞけたが一九〇四年と一九〇七年の條約でメコン河西岸地區のルアン・プラバン地方ほか數ケ所を割讓せしめ今日に至つてゐる、しかしていま泰國の失地回復要求の中心をなすものはこの地方である

一方英國は西方ビルマから手をのばしフランスと同樣理由にならぬ理由を捏造して次第にシヤム領を蠶食した、かくて泰國は英、佛兩勢力の間に挾まれその勢力緩衝地帶としてやうやく存在をつゞける有樣となり永く英佛ことに英國の勢力下に無氣力な存在をつゞけたが、先年政變によりピブン現首相が統率者となつて以來氣力を回復し新興泰國の建設に努力してゐる

佛印機の爆擊に報復
タイ空軍大掛り準備
ピブン首相ラヂオで獅子吼

【バンコック一日同盟】廿八日の佛印機のナコンパノン空襲に對しタイ國空軍は直ちにカンボヂヤのタケックならびにスワナケットに報復爆擊を行つたが、ルアン・ピブン首相は廿九日夜ラヂオを通じタイ國空軍が更にカンボヂヤおよびラオスの佛印領内に大規模な爆擊を行ふべく準備を完了してゐる旨發表した

自由主義を一擲
經濟にも新體制
政府原案近く閣議に上程

【東京一日同盟】政府は政治新體制と表裏一體をなす經濟新體制を確立すべく過般來企劃院案を中心に經濟閣僚懇談會において檢討を進め來つたが一日最後的審議を行つた結果政府原案を決定、近く閣議に上提されることゝなつたがその大綱内容中主なるものは左のごとくである

一、基本目標　世界新情勢に卽應しわが國民經濟を厭米依存から東亞共榮圏内に移行、自由主義から綜合計畫經濟機構に改編する

二、綜合經濟計畫中の各分子は公益優先と公共責任とを理念とし投機的、獨占的利潤を排し、生産利潤を適正化する

三、新らしき企畫形態として公共性を强調し、資本に對し生産擴充の實をあげた場合はこれに報償する勞務者に對しては統制、企業者が民意を暢達して明朗華北建設に力强き歩みを續ける新民會

全印に漲る反英運動
政廳側、徹底的に彈壓
婦人鬪士ら早くも檢束

【ボンベイ一日同盟】印度反英運動に對する印度政廳の徹底的彈壓政策に對抗し、印度獨立運動の婦人鬪士の第一人ナイズ夫人及び印度會議派ボンベイ支部長デザイラ氏は二日より反英サチアグラハ（非服從運動）を開始す

要人四名は檢束され、ボンベイのサチアグラハは早くも當局の彈壓を受けて不成功に終つた

一億の民意暢達
明朗華北建設へ
全華北全體會議開く

【北京二日同盟】華北一億の民意を暢達して明朗華北建設に力强き歩みを續ける新民會

全華北全體聯合協議會は來る

用紙共販會社
創立總會開く
來年一月より業務開始

【東京二日同盟】設立準備中の用紙共販會社（資本金百万圓半額拂込）は第一回株金拂込を完了したので卅日丸ノ内會館で創立總會を開き定款を審議承認、役員を決定、明年一月卅日より業務を開始する筈である、會社の主要業務は國内産政府指定用紙全部を製造業者より買取り元賣業者に賣渡すものであるが、同共販會社は專ら統制業務を行ひ物品の受渡、代金の決濟その他一切の實質的責任は當該製造業者と元賣業者間において取引上の責任は當該製造業者に對し元賣業者間において一切負擔することになつてゐる、役員社長高島菊次郎（王子）

優良商品の新市場
南方進出の參謀部
日本南方貿易振興會生る

【東京一日同盟】優良商品の關係各省に陳情することになつた、同會は東京、名古屋、大阪の三市商工會議所をもつて組織する日本南方貿易振興會の發會式は卅日大阪商工會議所に三市代表二十餘名出席して開催、會則を審議の後邦品見本市場開催方につき關係當局に陳情することに決定、十二月早々代表團が南方進出を目的として東京、工會議所内におくが、當局の認可があれば第一回事業として來年一、二、三の各月にフイリツピン、佛印、タイ、蘭印等に見本展示會を開催して日本商品の紹介に努める筈である

セメント共販會社
販賣機構改革へ

【東京二日同盟】セメント共販會社では販賣機構の改革のため淺野、小野田以下七社より成る販賣機構改善委員會を設置し、先般來同委員會において愼重協議中であるが、大體決定を見るに至つたので、いよ〳〵五日頃東京において開催される全社協議會に附議最後的決定を行ふことゝなつた、なほクーザン長官は東京

新任佛印財政長官
東京會談へ近く出發

【ハノイ一日同盟】佛印經濟交渉の佛印現地代表委員クーザンはさきにドゴール派として罷免されたカゾー長官の後を襲つて去る廿八日附けをもつて佛印財政長官に任命された、なほクーザン長官は東京會談出席のため二日サイゴン出帆ダニエル號で渡日の途につくが、同長官は一九三四年から昨年まで財政長官の職にあり、今回で二度目の勤めをするわけで佛印第一の財政通である

好天を利し
海鷲雲南へ
精錬工場を爆擊

【〇〇基地一日同盟】南支海軍報道部發表、海軍航空部隊は一日好天に惠まれ雲南奥地攻擊を敢行、國有精錬工場を爆擊炎上せしめた

前獨帝危篤

【ストックホルム廿九日米UP】ベルリンのアフトンブラット通信はドイツ前皇帝ウヰルヘルム二世がその居城オランダのドールンにおいて病篤と傳へてゐる、醫師の言によれば何分老齢のことゝて容態きわめて氣遣はれると

トピック解剖

シヤツプ殺さる

前パリ警視總監として知られ、ベタン元帥に認められて新たにシリアおよびレバノンの高等辨務官に任命されたシヤツプは三十日空路任地ベイルートへ赴く途中チユニス上空でイギリス軍用機の攻擊を受け墜死したシヤツプの乘機は純然たる民間定期航空機で全く無防禦であるに拘らずこれを英軍用機が知りつゝ擊墜したものとしてフランスの激怒を買つてゐる、シヤツプがシリアに赴くことはこの方面における勢力扶植に躍起となつてゐるイギリスにとつては大いに都合が惡いのでこれを赴任の途に擁して殺害したものと消息筋では解してゐる模樣である、多少穿ち過ぎた觀測のやうでもあるが、奠日の同盟國に對しその休戰後においてオラン、ダカール、ガボン、マルセーユと四回にわたり寄烈なる敵意を示したイギリスのことであるから、或はやり兼ねんとも思はれるのである、目的のためには手段を選ばずといふが、こればまた少々甚すぎるといはねばならぬ、フランスはこれによつていよ〳〵イギリスから離れ獨伊側に傾くことになろう、下手をやると却つてイギリスを攻めることになるかも知れないといふものもある位である

日本とソ聯

今次日華國交修復條約成立について、その後の各國論評を見るに、一番問題となつてゐるのは何といつても日ソ共同戰線を確定した、換言すれば政治的にはとにかく思想的には絶對にソ聯と相容れぬ關係にあることを明示した點であらう、英米系の新聞論調は、この條約によつて日本とソ聯との間に新らしい對立を生じたとしソ聯の灣政權援助がさらに强化すべき旨を頻りに書き立てゝゐる、獨伊側の觀察は、或る程度までこの點を認めるかの如くであるが、兩國の關係が政治的に對立するまでは至るまい、何故ならばソ聯は四に歐洲の再建が進行中であり、バルカン問題の複雜怪奇な情勢は一刻も眼が離されず、さらに中東地方から南進を策して多年の宿望たる印度洋に出やうとする彼會は今を措いてほかにない、故に東洋における日本の措置については現在では否が應でも一應はその爲すがまゝに任せるよりほかないだらうと觀てゐるのである、ソ聯が援蔣政策を捨てなければ結局日滿華三國とつて敵性ある國家と見なければならず、一方日獨伊三國同盟においてその對ソ聯關係が現狀のまゝ變改なきものたることを確言してゐる以上、次に解決せざるべからざる問題は對ソ聯關係といはねばならぬ

革新の怒濤
（續無斷上演上映）
佐々木　今朝吉　畫
木村　莊十

（二）

氏素生

美代吉は自分を乘せた舟が向處へ行くとも知らず、身をだへて泣いてゐた。

美代吉の頭腦には、今見て來た堀織部正の邸がまざまざと浮んでゐた。

深山の中へ入つて行つた樣な、樹木の鬱蒼とした廣大な庭、蒼苔に藏はれた、見事な石燈籠の側にあつた離座の茶室……

――あれが私の家なんだ――美代吉はさう呟いて唇を噛んだ。

たとひ深川の藝者が生んだ娘だつて、娘は娘、父は父……それを事もあらうに結宿の娘にしてしまつて月に廿兩や卅兩の御手當がなんだと思つたそれもいゝ、浮氣なおツ母さんを持つた不幸とあきらめもするけれど、犬のやうに人目を忍んで庭口から會ひに行つて親子の名乘りをしたかと思ふと、

「天下の浮沈にかゝる事だ、命をくれ……死んだと思つてモンプランの機嫌をとつてくれ……父がこの通り手をついて頼む……わしもお前の一生を踏み躪るからには安閑として生きては居ぬつもりだ」

美代吉は氣が狂ひさうだつた――何といふ勝手なあれが父親といふものか……武士といふものか……あの眼の碧い毛唐人の妾になれとは……あの鬼の樣な父親――

美代吉は、まるで世の中が眞暗になつたやうな氣持で、なんで私一人がこんな目に、世の中には大勢の腰元にとり卷かれ、寺すぎるほど幸福に暮して來た美しい娘は大勢ゐるだらうに、選りによつて私のやうな、御直參の大身の娘に生れながら、その父親の顏も知らなかつた不幸な娘をつかまへても思つた。

「姐さん、美代吉さん」

「え」

我に返つた美代吉は、今にもそこへ入つて來さうな三次の樣子にぎよつとした。

結は何時か川口から遠く海に出てゐるらしい。

「こゝは何處ぞえ」

「佃島の沖ですよ」

「ふうむ」

美代吉は涙のかれた眼を据ゑて水明りを背後にした三次の影を見守つてゐた。

「まア灯を入れやせう」

三次は、無遠慮に入つて來たが美代吉は肘をのばして半身を起したきりで、怯えるよりも何か拗鉢な樣子が見えた

「姐さん……」

「何か用？」

ふだんの素振からでも、男の心は分り切つてゐた、が、何にも氣がつかない樣な顏をして白々しく髮に手をやりながら振り向きもしなかつた。

蠟燭を點したゆらめく燈の中に美代吉の白い二の腕と、くつきりした襟足が仇つぽく狹い結の中には佛女香の匂がふわりと流れた。

「美代吉姐さん」

「なにさア……お前結をこんな所へ持つて來て、私が何も云はない内に闖した方がよかアないかえ」

美代吉はさう云ひながら凄艶な褄髮を見せて笑つた。

それは、今まであんなに泣いてゐた女とは思ひもつかない樣子だつた

陸軍定期大異動發令

李王殿下の御進級始め 事變の勇將要職に轉出

大將は蓮沼侍從武官長只一人

【東京二日同盟】十二月の陸軍定期大異動は二日發令、その一部は同日午前十一時廿分陸軍省より左の如く發表された

今回の異動においては李王殿下が陸軍中將に、賀陽宮恒憲王殿下が陸軍少將に御進級遊ばされたのを始め侍從武官長蓮沼蕃中將が陸軍大將に親任され、また轉補において中支、中支方面作戰に武勳を樹てた濱本喜三郎中將が牛島貫常中將に代つて台灣軍司令官に、また南支方面作戰に武勳を樹てた濱本喜三郎中將が十二月一日より北海道に新設された北部軍司令官にそれぞれ親補されたほか、岡部直三郎中將が多田禮吉中將に代つて技術本部長に、陸軍省兵務局長石本寅三中將が某要職に轉出してその後任に田中隆吉少將が補されたのが注目される

陸軍省發表、今回左の如く發令されたり

御進級、陸軍少將大勳位李王垠殿下任ず陸軍中將、陸軍大佐大勳位恒憲王殿下任ず陸軍少將、進級陸軍中將從三位勳一等功五級蓮沼蕃任ず陸軍大將▲陸軍少將天晶惠、同谷田勇陸軍技術本部付被仰付（各補）▲武田勳補陸軍防空學校長▼柴田信一補鉾田陸軍飛行學校長▲同柴山兼四郎補陸軍輜重兵學校長▼同大幸喜三郎補仁川陸軍造兵廠長▼大佐原田次郎補陸軍士官學校教授部長▼馬淵逸雄參謀本部付被仰付▼同村上宗治補鞍嶺要塞司令官▼同中村次喜藏補華北陸軍豫備士官學校長▼同小柳津一補陸軍科學研究所第二部長▼同山口樵夫補陸軍航空總監部第二課長▼軍醫大佐伊佐信雄大連陸軍病院被仰付

進級諸將の略歷

【東京一日同盟】大勳位陸軍中將李王垠殿下は故李太王殿下の第七王子、明治卅年御誕生、本年御年四十四才、大正六年士官學校御卒業、同十二年士官學校教官、歩兵聯隊長、陸軍予科士官學校教授部長を御歷任、昭和十三年少將に御進級、北支における御要職につかせられ御歸還後十四年八月近衛旅團長に御轉補、現在に至られた

政雄補陸軍科學研究所第二部長▼同山口樵夫補陸軍航空總監部第二課長▼軍醫大佐伊佐信雄大連陸軍病院被仰付

蓮沼新大將は金澤の生れ、本年五十八才、陸士第十五期生で明治卅七年三月騎兵少尉に任官、累進して昭和十年八月陸軍中將に昇進、その間日露戰役の沙河戰で初陣の功を樹て功五級を賜り、陸大卒業後仕官、歩兵聯隊長、騎兵旅團長、騎兵監、師團長、中部防衛司令官などを經て現地部隊長に補せられ北支方面において赫々たる武勳を樹てたが、十四年九月前武官長畑俊六大將が陸相に親任された後を襲つて侍從武官長に補され今日に至つた、關東軍司令官梅津大將、北支派遣軍司令官多田駿中將、西部軍司令官上村清太郎中將は現役に殘存してゐる同期生である

蓮沼大將の親任式

首相より官紀傳達

【東京一日同盟】侍從武官長蓮沼大將の親任式は二日午前十時半宮中鳳凰の間において天皇陛下親臨、近衛首相侍立のもとに執り行はせられ親任の勅語を賜はり首相より左記官記を傳達した

陸軍中將從三位勳一等功五級　蓮沼蕃

なお濱本北部軍司令官並びに本間臺灣軍指令官は任地にあるため內閣より陸軍省を經て職記が傳達された

岡前橫鎭參謀長 總力戰研究所入り

後任に遠藤少將決る

【東京一日同盟】前橫鎭參謀長岡新少將は近く總力戰研究所入りをするので、今回その後任に去る十一月ドイツより歸朝した遠藤喜一少將を任命、補橫須賀鎭守府參謀長に補職發令せらる

海軍少將　遠藤喜一

獨空軍翼緩めず 英京空爆行續く

【ベルリン一日同盟】獨軍司令部發表

一、わが爆擊隊はロンドンに對して集中爆擊を敢行、市內に大爆發を生ぜしめ就中バデントン、ケンシントンパターシーなどの各地區には大火災が起るのが確認された、またリバプール、バーミンガム、ブリマスなどにも有効なる爆擊を行つた

一、わが空軍は一日重ねてロンドンおよび海峽對岸諸港の爆擊を敢行、ブリマスには大火災を生ぜしめた

天羽駐伊大使歸朝

【ローマ廿九日同盟】天羽駐伊大使は廿九日午前十時半キジ宮にチアノ外相を訪問、歸國の挨拶を述べたのち、最近の歐亞情勢について外相と懇談を遂げたのち、午後一時半ローマ發の特別列車で歸朝の途についた

支那そば

トーストにも

公定小賣値

新京灣軍司令官本間雅晴中將は新潟縣出身、本年五十四才陸士第十九期で明治四十年十二月歩兵少尉に任官して累進して昭和十三年七月中將に進級した、その間陸大を卒業、印度駐在武官、秩父宮殿下御附武官、英國大使館付武官、ジュネーブ一般軍縮會議隨員となり、昭和十二年ジョージ六世の戴冠式に際しては秩父宮同妃兩殿下英國御差遣に隨行仰付けられた、また滿洲事變勃發直後の昭和七年には陸軍省新聞班長に補され、國際聯盟の脫退など陸軍のスポークスマンとして名を擧げ、今次事變には現地部隊長として北支方面作戰より漢口攻略戰に活躍、さらに天津租界封鎖責任者として警備と治安の確保に當つた

價格形成中央委員會では十六日飲食店で賣る支那そば、ワンタン、サンドウイッチ類、ハム及び玉子サンドウイッチが（A）廿七錢（B）卅錢、ソーセージ・サンドウイッチ（A）廿三錢（B）廿六錢、野菜サンドウイッチ（A）廿錢（B）廿二錢、ホットドック（A）十錢（B）十一錢、ジャムまたはバター附食パン（A）が八錢から十五錢（B）十一錢から十六錢

價格形成中央委員會では十六日飲食店で賣る支那そば、ワンタン、サンドウイッチ類、ハム及び玉子サンドウイッチが（A）廿七錢（B）卅錢、ソーセージ・サンドウイッチ及びジャムまたはバター附食パン類（トーストを含む）は店先で買ふ場合（A）と店で飲食する場合（B）に區別されハム及び玉子サンドウイッチが（A）廿七錢（B）卅錢、ソーセージ・サンドウイッチ（A）廿三錢（B）廿六錢、野菜サンドウイッチ（A）廿錢（B）廿二錢、ホットドック（A）十錢（B）十一錢、ジャムまたはバター附食パン（A）が八錢から十五錢（B）十一錢から十六錢

次いで部隊長を歷任し、今次事變には現地部隊長として北支方面作戰より漢口攻略戰に活躍、さらに天津租界封鎖責任者として警備と治安の確保に當つた

天羽駐伊大使歸朝

【ローマ廿九日同盟】天羽駐伊大使は廿九日午前十時半キジ宮にチアノ外相を訪問、歸國の挨拶を述べたのち、最近の歐亞情勢について外相と懇談を遂げた

名物は沙漠と駱駝

風雲孕むアラビア

今後重要な作戰據點

ヒットラー、ムツソリーニ兩雄のブレンネル會談によつてイタリアの地中海方面における對英攻勢は一段と進展するものとみられる、從つて今後の戰局は英國勢力圈たる近東アラビアにおいても新たな展開をみせるものと思はれる、アラビアは地理的にいつて面積約百万平方マイルの廣大な地域で沙漠と駱駝と回教徒をもつて有名である、人口約五百万、北はイラク、トランスジョーダンに境を接し、四は紅海、東はペルシア灣、南はアラビア海に圍まれてゐるもとトルコによつて北部、西部及び東部の三方面を支配されてゐたが、歐洲大戰後トルコは支配勢力を失ひ、北部には英國の委任統治國イラク、トランスジョーダン等が出現し、アラビア本部には大戰中紅海岸にヘジヤズ王國が起り英國の保護を受けつゝ大戰後全アラビア半島に向つて勢力を擴大しはじめた、しかるにこの趨勢は半島の中央部に回教ワハービ派の首長イブン・サウド王の率ゆるネジド國が興つたためにさへぎられたイブン・サウド王はアラビアの民族的英雄で、夙にトルコの勢力を驅逐してアラビア人の獨立統一を圖らんとし大戰前既にペルシア灣岸のトルコ領ハサ地方を攻略し、大戰後歐洲列强の勢力の及ばぬ間に紅海岸のアシル地方を攻め、北はハイール及びジャウフをとりトランスジョーダンにも侵入した、ついで一九二五年ヘジヤス國を征服しその國全半島に及ぶに至つた、こゝにおいて英國は一九二七年イブン・サウド王とジエッダにおいて條約を結び、彼の領土を「ヘジヤズ及びネジド王國」といふ名稱の下にその完全なる獨立を承認したのであつたが、一九三二年に至りサウヂ・アラビア王國と改稱した、一九三四年には英領アデンの西北に連るイエーメンを攻めて紅海に臨むホデイダ港を占領した、しかして今日ではアラビア半島の大部分はイブン・サウド王の治下に入りアラビア人のアラビアがほゞ完成しかけてゐる

しかし南部のハドラマウトと東南部のオマーン國と東北部のコウエイト國とはなほ英國の保護下にあり、その他若干の酋長國を存して未だに完全なる統一とはいひ難い、しかも南部の突端には英領アデンがあつて戰略的要衝を占めてゐる、アデンは今次大戰において イタリアの近東アフリカ作戰上目の上の瘤のやうな邪魔者なので、すでにイタリア軍はアデンの對岸なる佛領ソマリランド並に英領ソマリランドを手に入れたので今後獨逸を攻撃するに至るかも知れない、ムツソリーニ首相はかねて回教徒の保護者をもつて任じ、アラビア人が英國人やユダヤ人の勢力下に窒息せんとするのをみてこれが解放運動に好意を寄せてゐる、今後大戰の推移に伴ひアラビアの動向は注目に値するであらう

Casa Rambaldi
本店 Rua Liberdade, 472 - Tel. 2-1424
支店 A Italo-Brasileira Quint. Bocayuva 238 Tel. 2-7091
家具及絨氈
御支拂には御便宜をはかります

二大療法
一、湯治法　神經痛、リウマチス、婦人病、寢小便
二、局所法　土カブレ、アセモ、打傷、ハレモノ、フキデモノ、切傷
遍照湯
製劑元祖 神戸市島田大光堂伯國總取扱店 聖市 プエノ・デ・アンドラーデ街一〇〇 郵函三七八四
カーザ富山

キツトお氣に召すモコタの洋服
横田洋服店
聖市コンセレイロ・フルクード街廿七
西中菓子店隣り

靜かな館旅御
歸國手續及御病人の御世話致します
新潟旅館
聖市コンデ・デ・サルゼーダス一五七
電話二一七三〇八番

急募……運轉手一名
御希望の方は左記へ
ブラッサ・ダ・セ三九九番二階
ブラ拓秘書室

Pensão Larangeiras
Rua das Larangeiras, 49-49A
el 25-3034
Rio de Janeiro
ホテル・ラランジエイラス
館主　中山
リオ・デ・ジヤネイロ市
ラランジエイラス街四九—四九A
電話　二五・三〇三四
（大使館通り）

八十島豐氏ニ告グ
昭和十五年十二月七日迄ボンベイア青年會事務所迄大至急出頭相成度

日伯社雜誌部よりのお願ひ
母國雜誌婦人もの、少年、少女もの十月號は去る廿七日入荷、即日各予約筋へは發送致しましたから既にお受取りのことかと存じますが、もしも不着の場合には御手數ですが至急その旨御通知下さい御通知がなければ手前共では御受取り下さつたものと見做しますから右御諒承下さい

素晴らしい評判の
料亭
富美の家
女給さん募集
聖市タバチンゲーラ街七十二番電話三一三六二番

於リンス市物理療院經營中の御厚情を感謝致します
東洋醫科鍼灸高專出身　物理醫學士　中村榮甫
私事左記に移轉し二十五年余の體驗を以て醫療擴張し外科、內科、婦人科其他醫藥、鍼灸、電氣、紫外線、太陽燈、レントゲン、整骨法就中治病的確、短時日難病撲滅の最良機關とも云ふべき獨逸製ケテリング電熱機等を使用し最も速かに不治とあきらめてゐる方は最後の御養生に急病、重病又は手術を要する方も簡單に治る事が澤山あります
是非お訪ね下さい
如何なる難患業病も根治せしめることに致しましたから何卒倍舊の御鞭撻、御利用被下樣御願ひ申上げます
▽諸苦痛、吐瀉、咳き、出血、寢小便は直ちに止め腫物一切速かに散らす
診療所　マリ、ア市サンルイス街ベルナンブツカ下隣玉突の二階
自宅　マリ、ア市元朝日ホテル　郵函E　電話二七七

カーザ東山
CASA TOZAN, LIMITADA
São Paulo ..... Rua Florencio de Abreu, 308 - 314 - 318 - 322 C. P. 528 - Tels. 3-1141 3-1142 3-1143 3-1144
Santos ..... Praça Mauá, 25 - C. Postal, 911 - Tel. 2106
Rio de Janeiro ..... Rua São Pedro, 63 - C. P. 3342 - Tel. 23-4031
Lins ..... Av. Voluntario Rosalino Silva, 147 - C. P. 11 Telephone, 240
Marilia ..... Rua 9 de Julho, 1277 Caixa Postal, 74 Tel. 460
P. Prudente ..... Rua Tenente Nicolau Maffei, 36 C. Postal, 17 Telephone, 300
Promissão ..... Rua Julio Prestes, 1057 C. Postal, 16 Tel. 50
Cuarantan ..... Estação Guarantan — N. O. B.
Alvares Machado ... Estação Alvares Machado - E. F. S.
東山銀行
CASA BANCARIA TOZAN, LIMITADA.
伯貨定期預金　年六分
SANTOS — S. PAULO — LINS — MARILIA — P. PRUDENTE

R. Monteiro & Cia
CASA MATRIZ E ESCRITORIO
Rua 25 de Março, 533
Caixa Postal, 1646 - Telephone, 2-4388 - São Paulo
Casas Filiais:
Rua José Bonifacio, 43 Esq. Bocayuva Telephone 2-5510
Rua 15 de Novembro, 12-18 Telephone 2-1781
Avenida Rangel Pestana, 1475 Telephone 2-9837
IMPERIAL CASIMIRA MARCA REGISTRADA
Casas Filiais:
Rua Boa Vista, 199 Telephone 2-3688
Santos Rua Gen. Camara, 79 Telephone 5657
Rio de Janeiro Rua Uruguayana, 106 Telephone 23-5067
◆弊店は伯國最大の反物店で內外優秀のカジミーラを豐富に仕入れて居ります
◆尙歐洲よりブリン、麻、パームビーチ、トロピカル等本年夏向きとして種々多量に仕入れました
◆アズールマリニヨのタルジア地一米十八ミル以上
◆弊店は國產優秀カジミーライムペリアルの總代理店
◆地方より御出聖の折は是非御來店の程を
◆尙地方へは見本をお送り致します

聖州と移民さん 腰を落ちつける日本人

斷然筆頭・定着率九割一分 歸國者は僅か一萬六千餘

もし二分制限がなかつたら 日本人で一パイ

伯字紙の論調

數字は こう語る

今世紀に入つてからブラジルに入つた移民の數は勿論相當數に上つてゐるが、その主なものはポルトガル、スペイン、イタリアの各ラテン系に日獨移民であるが、入國數に對し

	入國數	出國數	定着數	定着率%
ポルトガル人	二八七、六二四	一四四、九一〇	一三三、六四四	四三・六
スペイン人	一〇九、一四六	一〇一、四四一	一〇九、八〇五	五〇・人
イタリア人	一〇五、七五一	一三、九一六	一二、八六一	二・七
日本人	一八五、九九一	一六、六〇九	一六、三二三	九・二
ドイツ人	四六、一〇四	四〇、九二一	三、九九一	二・五

これで見るとドイツ人、イタリア人などこと卅年間に一割は僅々一萬六千餘で十六萬九千人はブラジルに定住してゐる、勿論定着率でも絶對數においても割合定着性のあるポルトガル、スペイン人より上

て出國數もまた多數に上つてをり、別表の通り日本人の定着率九割一分を除いては大抵五割以下で、つまりブラジルに出稼としては本國へ歸る者が大半だといふことになる

である、邦人の繁殖率も高いから若し二分制限がなければこの勢ひで行くと聖州には日本人が氾濫したかも知れぬと

一九三七 一九三八 一九三九 以上累計

マリリア	七、六二一	五、六二一	八、七六六
アラサツーバ	五、一〇〇	三、七〇六	三、八〇三
プルデンテ	六、三二一	三、一二三	三、九九七
リンス	三、四〇四	三、三五〇	四、三八七
カフエランヂア	三、一九一	三、五〇六	三、四四五
ペラクルス	一、五一〇	二、七八八	七、四四三
		二、〇六五	六、三六三

尤もこれらの大部分は北伯からのいはゆる內國移民が多いが外國人では斷然邦人が多く一九三七年度でマリリアは七千六百のうち二九八、アラサツーバは五千三百のうち六百三十五名の邦人が入植してゐるといつた有樣である

伯字紙は論じてゐる

なほ移民の入植した地方を年次別に邦人入植者の多い地方次別に邦人入植者の多い地方を年次別に邦人入植者の多い地方を年次別に邦人入植者の多い地方

自慢ぢやないが見せたいな おらが村さのこの姿

立ち起るモヂアナ地方

モヂアナ線クラビンニョス町近郊在住邦人は同地日本人會クラビンニョス聯合青年會合同主催で總領事館勸業部北村技手を講師に招き去る十一月廿六、廿七日の二日間にわたつて農事講習會を開催した、相悲くの降雨にも拘らず來會者百余名十六、七才の青年から六十才の老人まで鉛筆を手にして朝から午後六時まで熱心に聽講、更に夜は時局問題在伯邦人の將來執るべき態度について座談會を開き盛會かつ有意義に二日間の講習會を終了した

たほモヂアナ地方はノロ線、パ延長線の棉作黃金時代現出に一般から忘れられた觀があつたが、近年カフエー單作時代も過ぎ、オ、豆、トマテ、馬鈴薯等所謂多角農に進出、耕地主白水氏その他福吉、佐藤氏等の三萬アローバとその棉花生產數量では個人として

借地農は勿論地主の數も年々增加して行き、昔モヂアナ線を見捨てた人々に今日のモヂアナを見せたいと同地方の人々は語つてゐる、ジャルヂノポリス驛のみにてもサンペードロ耕地主金水氏の棉花四万アローバ、サンタ・イザベル

伯人間にも比肩する者もない

石射大使 リオ市長を 晩餐會に招待

石射大使はけふ三日午後八時半リオ市々長エンリツケ・ドゾワース氏ならびに市廳の高官連を晩餐會に招待する

（寫眞は石射大使）

種薯異變に備へ 日本種の試驗栽培

農事協會の報告 ◇……殘念だが和蘭ものに敵はぬ

結果は？

いまではブラジルにおける主要食產國たるオランダが歐洲戰火の洗禮を受けたため輸入杜絕して栽培者は大打擊を受けてゐる馬鈴薯の種薯は國內で生產した種薯は繁殖能力の低いのと品種が殆んど限られてゐるので實際上栽培面積の大半は輸入種薯であるが、その主要生產國たるオランダが歐洲戰火の洗禮を受けたため輸入杜絕して栽培者は大打擊を受けて

日伯農事協會ではその打開策の一つとして同じ輸入するなら我々の母國であり氣候にもオランダと相類似する日本より輸入した方が有利だらうと組の手で北海道產種薯エゾニシキ、ダンシヤク、メークキンの三種を取り寄せオランダのアイゲニアイメル、ピングボルモザイク、エゾニシキ種ゼと比較栽培をなし當地における種薯としてどの程度であるかを試驗したが結果は別表の如く發表された

處が日本の種薯には防禦法ないと言はれる作物の强敵モザイク病が發生したものが多くダンシヤク種にはローリングボルモザイク、エゾニシキ種には斑點狀のものが多く見られ氣候、風土に馴れぬせいもあるが總體的にオランダものに對しては劣るといふ結果であつた、なほ農事協會では抵抗力の强いものを交配して免疫種を作るべく標高千七百米のラヂアダ、千二百米のレノ

種薯名	數量單位	六月末S當り實收量	一〇〇〇M S當り實收量	一〇〇〇M S當り實收量	一〇〇〇M S當り實收量	標準一〇〇〇M S換算數量	同上換算數量
エゾニシキ	一、八三三	三〇四、八六六	七三、五七七	三三、五〇〇	三四、六六〇	三〇、五〇	三四、六六〇
ダンシヤク	一、八三三	三〇五、一九五	七三、五〇〇	三四、六六〇	三〇、五〇	三六、九五	三六、九五
メークイン	〇、八三三	三三六、一九五	三四、〇六〇	三三、四〇〇	三三、五〇	二一、一〇	二一、一〇
アイゲニアイメル	二、一三二	三三四、三六五	八五〇、二四〇	二六、八〇	二六、五〇	二八、八	二八、八
ピンギ	二、〇四〇	三三七、五八九	八九二、二三六	二六、〇	二六、〇	二三三、〇〇〇	二三三、〇〇〇

ポリス及びカシンギー本場の三ケ所で輸入種薯及びそれから取つた第二世の種薯の試驗をなしつゝあるが結果は非常な期待をもたれてゐるなほ農事協會では農業者は單に植えればよいといふだけでなく種薯についてもつと研究して貰ひたいと語つてゐる

高鳴る球熱!!

東山チーム 初の練習試合

最近野球熱の高騰に刺戟されて誕生したカーザ東山野球チームでは、去月三十日カ・ナカオ球場でAB二組に分れて初の練習試合を行つた

先づ山本組支配人の始球式に集ふ球兒の意氣軒昂、炎熱もものかは熱、五回、遂に九對二でA組大勝したが最近のうちに好敵を射止めんものと部員の意氣込みは物凄いばかりである

意氣軒昂の 產組中央會チーム

過日、總領事館チームに大敗を喫した產組中央會チームでは、その後雪辱の意氣に燃えて猛練習を重ねてゐたが、去

日本歸りに

總て「外國人登錄」を强要

現れ出たインチキ法律事務屋

一時歸國者即ち再渡航する外國人出國者は總て外國人登錄の必要なことは周知の事實であるが、最近これを惡用するインチキ法律事務屋が聖市に出現、日本歸りと見れば、それ等の人々が法律に暗いのをいゝことにし一時歸國者、永久歸國者の別なく總て外國人登錄を强要、不當の金を捲き上げてゐる

再渡航しない者即ち永久歸國者には外國人登錄の必要はないのであるから、日本歸りはこの種インチキ法律事務屋の言に迷はされぬやう

自動車にはねられ 明ちゃん即死

リンス市森部、青山藥局共營者青山移民次男明ちゃん（二才）は去る二十三日夕方自宅前で遊戯中自動車にはね飛ばされ可哀さうに即死した

街

□…擅球のスノーカーは十八歳以下の學生はご法度だが、夏休みの間（十二月から三月まで）はお構ひなしと當局から粋なお達し

□…この間の本教會議の結果として今後毎週金曜日の午後七時半からサンフランシスコ廣場のイグレーヂヤで日本語を話す神父さんの有難いお話がある

□…既報、荒垣朝日特派員歡迎をかねた早稻田會例會は三日午後七時と變更

□…既報、近ごろ料理屋のお客さんといへば地元民それもチヤチなサラリーマンに占められ、たまに顏を見せる田舍の人士も今まで見たいに豪勢に札ビラを切るなと樂にしたくもなく、所請「カモ」に不自由するところから女給さんの稼ぎもガタ落ち、正に女給生活戰線の大異常を來たしとるそうな

□…料理屋といへば青柳のお稻荷さんお詣りしたらビツショが當つたといふので大繁盛、常盤ホテルの台所からお稻荷さんがまる見えだが、朝早く何をいるのか鳥居を三ベンくどつてポン〳〵柏手を打つもの、精神統一ぬ知らぬが三十分間もチヤチ・・・

Redacção e Administração:
Rua Maestro Cardim, 1109
Telepk.: 7-3325 e 7-3326 - Cx. Postal 375
SÃO PAULO-BRASIL

BRASIL ASAHI

DIRECTOR: *José Yamashiro*

ASSIGNATURAS:
PARA O BRASIL { Anno . . . 60$000 / Semestre . 30$000
PARA O EXTERIOR - Anno. . . 120$000
ANNUNCIOS — Tenco á disposição dos interessados uma tabella completa de preços p/ annuncios nesta folha

Anno I | São Paulo — Domingo, 3 de Dezembro de 1940 | Num. 110

NOTAS E EDITORIAES

"Uma demonstração do prestigio que a intelligencia do homem moderno confere ás indicações numericas está na constante presença dessas indicações nos documentos e nos discursos dos homens publicos.

Sente-se que a sempre a preoccupação de citar estatisticas para dar em base ás declarações.

Dahi a froque te menção, no meio de inflammados discursos de praça publica, de dados de volume de producção ou referentes a outros factos economicos ou sociaes. Modernos conductores de homens interrompem phrases rebonantes para alludirem a milhões ou milhares de toneladas de certo producto em stock, ou ás cifras da producção desta ou daquella industria.

Enraiza-se e espraia-se a convicção de que não basta falar em grandezas, mencionar recursos em tal ou qual reino da natureza: é indispensavel que a affirmativa venha apoiada pelas estatisticas.

E' que a Estatistica é o que ha de mais imparcial, de absolutamente neutro, fazendo repousar a sua auctoridade no menos fallivel dos recursos humanos, ou seja o recurso da contagem.

Armada com a insuspicção, a sua caracteristica de pairar sempre acima das influencias da vontade, reflectindo os factos bons e soalhados pelos povos do mesmo modo que as occurrencias mais contrarias aos seus desejos, sem falsear ou torcer o sentido de uns e de outras, a Estatistica é o melhor instrumento de pesquisa no campo collectivo.

Bem faz quem bem cuida das suas estatisticas. O Brasil não começou a fazel-o com a desjada precocidade. Mas procede hoje com a decisão de bem organizar de vez, inclusive com os resultados de um recenseamento geral ainda agora em andamento, a nossa ***contabilidade social*** comprehensiva e esclarece ora."

(Communicado do S. N. R.)

O noticiario telegraphico publicado pelo "BRASIL ASAHI" é fornecido pela Agencia Dômei, japoneza.

Cada vez mais precaria a situação de Chungking

Altos circulos politicos chinezes inquietam-se ante a orientação de Chang-Kai-Chek

Hong-Kong, 28 (D.) — Em recentes telegrammas endereçados ao general Chang, segundo informações procedentes de Chungking, os srs. Richeksung e Changshikyang, ambos figuras de grande projecção na esphera politica da China nacionalista, ora em visita á França, teriam admoestado a orientação governamental de Chungkiking, interrogando se havia absoluta confiança na victoria final, porquanto não querem admittir o anseio publico que é o estabelecimento da paz. Diz-se ainda que se ha algum plano certo para o triumpho, as auctoridades deveriam orientar o povo, demonstrando o processo, para que o povo possa auxiliar a execução desse plano.

As attitudes energicas dos dois influentes estadistas motivaram ruidosa discussão nos circulos politicos de Chungking.

Consta ainda que Riraishi e Rikongen, de Kumming, onde estão retirados, enviaram telegrammas, salientando a excellencia da opportunidade para assignatura do tratado de paz e chamaram a attenção do Conselho Supremo de Defesa Nacional que não deixe perder esta occasião.

As possiveis causas do anniquilamento do regimen nacionalista chinez

Tokyo, 28 (D.) — Com a aggravação do momento internacional europeu e devido ao reflexo do refortalecimento do eixo Roma-Berlim e a approximação da U. R. S. S. ás potencias pactuantes da triplice alliança, o regimen changkaichekiano experimenta, nestes ultimos tempos, um de seus mais difficeis transes.

A organização do governo nacionalista de Nankin, pelo sr. Wang-Ching-Wei, que pela estreita cooperação com o povo visa a instituição de uma paz duravel na Asia, é outro factor dicisivo para o anniquilamento do já agonizante regimen de Chungkiny.

As causas determinantes da destruição do governo são em summa as seguintes:

1.°) Devido á falta de visão politica, o general Chang afastou as suggestões apresentadas pelo sr. Chenkai, e outras altas auctoridades diplomaticas, confiando nos auxilios anglo-norte-americanos.

Porem, com a evolução da guerra europea, nenhum auxilio de material bellico pode-se esperar da Inglaterra pois ella está empenhada na sua propria defesa.

Tambem as negociações iniciadas em Moscow pelo sr. Son-fo, enviado especial, não tiveram o exito esperado, visto que a U. R. S. S. está desenvolvendo intensa actividade no sentido de approximar-se das potencias do "eixo".

2.°) A desharmonia recentemente surgida entre o regimen Chang e o Partido Communista influenciada pela melhora nas relações nippo-sovieticas faz prever na possibilidade dos exercitos communistas da 4.a e 8.ª zonas abandonarem o governo nacionalista.

3.°) Insuflados pelas opiniões aventadas pelo sr. Chengkai, embaixador chinez em Berlim, os combatentes nacionalistas, completamente destituidos do animo bellico, começaram a reconhecer que o unico recurso para a paz e progresso da China é alliar-se com o Nippon.

O general Chang tem tomado energicas medidas contra os pacifistas, porém a sua repressão está se tornando cada dia mais difficil.

5.°) Não obstante os esforços que o governo changkaichekiano envidará para chamar a attenção do povo, fatigado pelas successivas decepções e miseria, caso proseguir nas hostilidades, os soldados chinezes não conseguirão resistir aos avanços nipponicos e serão facilmente capturados, conforme se observa nas recentes operações levadas a effeito pelas forças imperiaes na China.

Problemas debatidos no Conselho Privado

Tokyo, 27 (D.) — O conselho privado reuniu-se hoje no Palacio Imperial, ás 10 hs. e presidida por Sua Majestade, debateu os seguintes assumptos:

1°.) Plano ministerial referente á secção de Informações do gabinete. (Plano de ampliação da referida secção de publicidade).

2°.) Reforma da organização dos funccionarios publicos, reconhecendo ás pessoas que se empregarem ao governo extrangeiro um pacto correspondente, para facilitar o intercambio de funccionarios entre o Nippon e Manchukuo.

Além dessas questões foram discutidos varios outros problemas encerrando-se a sessão ao meio dia.

Serão transferidas para Tokyo as negociações commerciaes entre a Indo-China Franceza o o Japão

Tokyo, 29 (D.) — Por solicitação do Governo da Indo-China Franceza, as negociações para assignatura de um accordo commercial entre aquelle governo e o governo japonez que estavam sendo feitas em Hanoi serão transferidas para Tokyo. As novas conversações serão iniciadas nos fins do proximo mez, devendo a missão Matsumiya regressar ao Japão ainda nestes dias. Consta ainda que a Indo-China Franceza será representada nas negociações de Tokyo pelo seu embaixador Henry e mais algumas personalidades do governo de Hanoi.

Foi dada ordem de partida ao Choryo Marú

Londres, 27 (D.) — O ministerio do Exterior britannico participou á embaixada imperial desta cidade que o governo londrino permittiu a partida do cargueiro japonez "Choryo Maru", que estava detido desde 20 de Setembro, no porto de Colombo.

Impressos?

Procure a typographia

NIPPAK-SHA

Machina e Educação

Valerio Giuli

Este nosso seculo favoreceu, grandemente, o apparecimento e a utilização da machina, que multiplicou a capacidade de producção do homem e chegou quasi a mollar o grão de civilização dos nossos dias, onde o proprio homem chega, por paradoxo, a produzir como machina.

O desequilibrio social que advem desta concepção é grande, pois, se a producção póde ser illimitada, o consumo tem seu campo de acção demarcado por varios factores.

Quando bem orientada em suas finalidades, a introducção da machina, na vida individual e collectiva, constitue elemento de acção civilizadora e serve tambem para prender o homem ao proprio meio social, facilitando-lhe a vida e proporcionando-lhe communicação com outros meios, sem necessidade de se ausentar do seu. Ella occupa hoje um lugar de destaque pela serie de beneficios que proporciona aos homens mas o ser humano deve occupar o primeiro plano neste conjuncto de situações novas criadas pelo machinismo. Ao homem cabe a tarefa de conduzil-a e de amollal-a ao seu rythmo de trabalho. Favorecer o apparecimento do "technicalismo", isto é, a valorização excessiva da machina em detrimento do homem, é desvirtual-o de suas funcções e de suas finalidades no grupo social.

A mechanização excessiva dos nossos dias requer individuos habilitados e preparados para ella.

Já vae longe o tempo em que a escola apenas alphabetizava; hoje ella deve educar e preparar o jovem para se integrar ao seu meio.

A escola sabe, perfeitamente, que seus egressos, em sua grande maioria, terão que renovar as camadas industriaes ou agricolas do paiz. Porque não os prepara esse futuro? Porque não indaga de suas aptidões e capacidades, antes que elles abandonem os bancos escolares? Não é sufficiente e dolorosa a experiencia de milhares de individuos, que vivem num nomadismo continuo, de profissão em profissão, até que, vencidos, mas não convencidos se ajustam como podem a uma dellas?

Sabendo-se que a machina constitue, nos dias que correm, o mais preciso collaborador do homem, cumpre-nos estudal-a em funcção do proprio homem.

A analyse funccional da profissão, mostrando os aspectos physiologicos e mentaes que determinado machinismo exige dos seus operarios, mostra, de maneira crystallina, quaes as aptidões que devem ser procuradas nos seus futuros machinistas. Alem desta vantagem a analyse funccional pode estabelecer uma relação mais ou menos intima entre diversas profissões, mostrando quaes as technicas essenciaes que ellas exigem e indicando quaes as operações elementares e fundamentaes que o aprendiz deve conhecer.

Desta forma, não só fica bem definida uma profissão, como tambem um grupo dellas, o que facilitará bastante o ensino technico a ser ministrado.

A orientação profissional tambem lucra com isto, pois será dada nos educandos com bases seguras e scientificas.

Os beneficios vão além. Os estabelecimentos de ensino que funccionarão junto ás industrias, conforme manda o recente decreto do sr. Presidente da Republica, terão que preceder a formação profissional dos aprendizes...

Que melhor guia, para os mestres encarregados dessa formação, do que a analyse funccional das diversas profissões?

INFLUENCIAS OCCIDENTAES SOBRE A CULTURA JAPONEZA NOS TEMPOS ANTIGOS

IZURU SHIMMURA

(11)

Posteriormente, comtudo, a barreira foi sendo gradualmente abandonada e assim foram admittidos livros chinezes que tratassem da sciencia occidental. Entre elles, encontravam-se livros sobre a astronomia e mathematica e posto as theorias nelles contidas fossem antiquadas pelo menos um seculo, eram, no final, bemvindas pelos estudiosos japonezes.

Comtudo, apezar de severa a censura, alguns livros encontraram o seu caminho para os estudiosos do mesmo modo como os livros christãos creavam a sua fé atravez os duzentos annos, até a reabertura da nação, — em meiados do seculo XIX. Era imposivel aniquillar seja a fé seja os estudiosos. Emquanto duraram os annos de reclusão estricta, a civilização occidental continuou fazendo mesmo a mais pequena contribuição possivel atravez as traducções chinezas de livros religiosos e scientificos, e pinturas, esculpturas e outros objectos de arte industrial, que foram sendo importados. Nestas condições, a importação da sciencia e da arte occidental da China estava sendo executada por intermedio dos estreitos canaes da traducção de escritos e idéas. E, de facto, havia outros caminhos para a importação da China, como por exemplo atravez da Koréa e de Loochoo. Após o meiado do periodo de reclusão, Hokkaido, tambem, attrahiu a attenção das auctoridades.

(Continua)

Do Mundo

(Nono dum Serie)

A familia moderna contemporanea apresenta esta instabilidade e esta imprecisão quanto ao principio da auctoridade. O homem e a mulher não se dão, em regra, mas inventam uma palavra, muito bonita, para explicar a falta de educação social, a "incompatibilidade". É imprecisa, pois não se sabe quem manda. Todos querem gozar, mas ninguem quer soffrer e pagar as consequencias de seus proprios actos. Outro principio de Peters:

2°. — A crescente independencia economica da mulher, provocada pela divisão do trabalho. — A mulher se submette ao homem porque é dependente economicamente. No fim, ella se enfada. Já a mulher tendo independencia economica, o homem não póde fallar muito alto... Fica numa situação de certo constrangimento. Mas a mulher é explorada no mercado do trabalho: é muito mal remunerada. E a consequencia perigosa, ella soffre, mas inconscientemente. A mulher se deixa mais levar pela imaginação e, sem querer, ella cava a propria ruina da sociedade, porque baixa o nivel do trabalho. É tão grande a instabilidade do mundo e a instabilidade economica que os estados totalitarios tendem a diminuir mais e mais o numero de vagas para trabalho de mulheres (10%), tornando obrigatorio o casamento. Contra o celibato, que era um crime social, alguns estados crearam elevados impostos ou a obrigação de trabalharem para elles. Assim, fica resolvido o problema dos desoccupados.

Continuaremos. — *M.*

Flor e Soldados

(HANA TO HEITAI)

ROMANCE 27 Ashihei Hino

Ameixeira em Flôr

Os divertimentos cessaram. As peças anti-aereas, collocadas perto do lago, começaram a atirar mas cessaram depois de alguns tiros. Depois alguem espalhou a nova de que o ataque chinez fôra repellido. Em poucos minutos o silencio foi de novo substituido pelos chaos com o troar dos gongos e dos tambores e o povo divertindo-se outra vez.

Disse até logo ao chinez e convidei-o a visitar-me logo que pudesse. Disse-me que elle e a irmã viviam com a mãe e que a sua situação não era muito confortavel. A sua irmã estava estudando musica desde creança e que ella provia escolhera o serviço de entreter no "Mundo Grande". Quando nos separamos e me disse isso, a sua voz estava calma e doce, parecendo muito differente daquelle que tão voluvelmente expuzera os seus pontos de vista sobre Chiang Kai-Shek e o futuro da China. Mas elle parecia de familia aristocratica e realmente possuia uma personalidade graciosa e por isso me perguntava a causa da sua ruina. Era devido á guerra ou outra cousa? Parecia extranho não saberem do paradeiro do pae. Senti que occultavam algum segredo. Depois descobri que a minha suposição estava certa pois a irmã contou-me que seu pae era alto official do exercito da China Central e estava nessa occasião em algum logar do front de Hsuchow, commandando uma brigada. Fiquei chocado quando me disse isso. Aquelle jovem se afastara do proprio pae afim de conseguir a realização dos seus proprios ideaes e ao mesmo tempo deixou campo para duvidas tanto para o lado dos japonezes como dos chinezes. Achei isso extraordinario, na verdade, difficil de percrustar.

Chegando á estrada beira-lago verifiquei que o ataque aereo não continuara mas o povo ainda parecia estar receioso de outros ataques. Os chinezes ficam ridiculamente em estado de panico quando ha qualquer indicio ou mesmo boato de taes ataques. Os aeroplanos chinezes só faziam ataques em dias bonitos e sempre voavam tão alto que não se podia vel-os a olho nú. Nunca jogavam bombas no centro da cidade talvez porque receiassem matar a populaça chineza. Sempre procuravam destruir os nossos postos avançados. Mas as suas bombas quasi sempre cahiam nas montanhas ou em logares ermos, pois nunca se abalançavam a descer o sufficiente para tomar uma boa mira. Uma vez largaram uma bomba num lago e que matou centenas de peixes, que fluctuaram para gaudio dos soldados guardan- aquelle sector e que rezaram para que os chinezes fizessem visitas frequentes e pescassem para elles.

Toda vez que soava o aviso de ataque aereo os chinezes deixavam cahir tudo e corriam para os abrigos anti-aereos. Pareciam estar sempre sob a impressão de que os aeroplanos os perseguiriam e por isso tapavam a bocca das creanças, com as mãos, para impedil-as de chorar e mesmo silenciavam os cães. Encolhidos e agglomerados nos abrigos procuravam mesmo reter a respiração.

Um soldado contou-me que tres aviões chinezes tinham apparecido, dois dos quaes tinham se destroçado no rio Chientang, o outro tendo escapado. Os salgueiros eram agora uma massa verde e a florada dos pecegueiros e das ameixeiras estendiam-se como uma grinalda ao redor do laço.

A Lingua

I

As nossas forças tinham desembarcado nas costas chinezas em grande numero mas só uma pequena porcentagem dos soldados eram capazes de falar o chinez com alguma fluencia. Cada unidade tinha interpretes mas pela maior parte tinhamos passado por villas desertas e logares montanhosos e os interpretes encontravam difficuldade em encontrar chinezes para conversar muitas vezes não podendo se fazer entender quando encontravam. Accrescido a esta difficuldade os interpretes estavam quasi sempre á retaguarda das tropas que avançavam. Comtudo, indubitavelmente, fizeram o possivel e sentia por elles. Estavamos com sorte excepcional em ter um linguista como Hatano mas elle não podia estar sempre á mão, motivo porque os homens começaram a estudar seriamente o chinez e era divertido ouvir o modo exquisito com que pronunciavam a lingua. A primeira palavra que apprendiam era "Ni", que significa "Você". Depois progrediam para cousas maiores, ligando essa palavra com "Lai", significando "vir" e por algum tempo todo o seu vocabulario eram tres palavras. "Você venha, venha". Muito uteis em marcha quando queriam coolies ou alimento.

"Yu", ter, e "Meiyu", não ter, eram as palavras seguintes a serem digeridas. Uma vez quizemos fazer alguns chinezes comprehenderem que queriamos um porco. Elles não nos comprehenderam por isso escrevemos. Mesmo assim não conseguiram se esclarecer de modo que tivemos que dar grunhidos que logo mostraram o seu significado. Parece que o chinez usa para o porco o ideogramma que usamos para o javali.

"Hao", significa bom e "Pu hao", mau. Quando qualquer chinez se approximava com frango para vender, os soldados começavam uma especie de canção com "hao, hao, hao", depois agitavam os braços, esticando o pescoço, imitando a gallinha. Esse pequeno conhecimento de algumas expressões chinezas, accrescido da grande habilidade de muito dos homens servia-lhes bem e quasi sempre conseguiam o que queriam. Costumavam ficar furiosos com os chinezes que sempre respondiam "aw, aw", a tudo que diziam. Soa mais ou menos como a nossa expressão, um pouco rude, "oi, oi" que se usa para um inferior. Na realidade o "aw, aw" quer dizer "sim".

Desde que estiveramos occupando Hangchow alguns dos homens começaram a estudar com afinco e alguns tinham feito grandes progressos. Mas a maioria ficava exasperada com as difficuldades de pronuncia chineza, que é muito diferente da nossa. Era essa difficuldade de pronuncia que realmente os impedia de se enfronharem na lingua. Eu tinha a vantagem de ter estudado o chinez, com algum methodo, annos antes, mas, mesmo assim, achava a lingua extremamente difficil.

Investigações eram sempre feitas entre os homens para verificar aquelles que queriam receber baixa do serviço activo na China. Varios homens manifestaram desejo de serem dispensados desse modo mas Hatano sempre os desaconselhava, dizendo que a ignorancia da lingua, que não poderiam esperar apprender nessa idade, os impediria de ir longe.

"Eu quero ficar aqui" costumava dizer, "porque sei falar chinez".

Continúa